

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道57号 <small>たての</small> 立野拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省九州地方整備局
起終点 起点：熊本県阿蘇郡南阿蘇村赤瀬 終点：熊本県菊池郡大津町瀬田	延長 6.0km	
事業概要 国道57号立野拡幅は、国道57号の交通渋滞の緩和と国際観光拠点である阿蘇地域の活性化への寄与を目的とした4車線拡幅事業である。		
S52年度事業化	H一年度都市計画決定	S54年度用地着手
S57年度工事着手		
全体事業費	約159億円	事業進捗率
		75%
		供用済延長
		3.6km
計画交通量 21,100～25,600台/日		
費用対効果分析結果	B/C	総費用
	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)
	1.6	34/214億円
	(残事業)	(事業費：27/194億円)
	4.2	維持管理費：6.9/20億円
		総便益
		(残事業)/(事業全体)
		142/338億円
		(走行時間短縮便益：141/317億円)
		(走行経費減少便益：-2.9/11億円)
		(交通事故減少便益：3.7/10億円)
基準年 平成23年		
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=1.4～1.8（交通±10%） 事業費：B/C=1.6～1.6（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.6～1.6（事業期間±20%）		
【残事業】 交通量：B/C=3.5～4.7（交通±10%） 事業費：B/C=3.9～4.5（事業費±10%） 事業期間：B/C=4.1～4.3（事業期間±20%）		
事業の効果等 ①交通混雑の緩和 ・国道57号の混雑度の低下 ・観光期(GW)の所要時間の短縮（大津町引水～阿蘇市下野）の短縮 ②救急医療活動の支援 ・阿蘇地域から救急医療施設までの救急搬送を支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮 ③地域産業の支援 ・輸送コストの低減や製品生産スケジュールのリスク回避・低減などを支援する物流ルートとしての機能向上 ・農産品・畜産品の輸送コストの低減や販売市場拡大などを支援する物流機能向上		
関係する地方公共団体等の意見 ・大津町をはじめとする関係2市5町3村の首長等で構成される国道57号整備促進期成会より毎年早期整備の要望を受けている。（平成22年12月）		
県知事の意見 本路線は、国際的な観光地である阿蘇地域と熊本市を結び、観光、経済、産業を支える大動脈となっています。さらに、本県ではくまもとの夢4カ年戦略において、「品格あるくまもと」づくりのため重点的に取り組む施策として位置付けており、一日も早い完成供用を切望しているところです。 以上のことから、「対応方針（原案）」案の「継続」について異存はなく、今後とも、なお一層の整備推進をお願いします。		
事業評価監視委員会の意見 ・審議の結果、事業継続		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・立野拡幅完成区間の混雑度は1.7→0.9に改善し、国道57号の上り方向の渋滞長は平成18年度の15.3kmから8.3kmへほぼ半減した。 ・しかしながら、拡幅が未了の区間を起点とする渋滞長（8.3km）は現在も著しい。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成22年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約75%であり、そのうち用地進捗率は約91%に達している。		

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・地元や関係機関との協力体制のもと、事業効果を早期発現できるよう、引き続き用地買収及び工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・地すべり面対策工による増加【約6億円増】
- ・橋台施工時の土留め対策工による増加【約3億円増】
- ・橋梁補修・補強対策工による増加【約4億円増】
- ・新技術・新工法の積極的活用、建設副産物対策などによる、着実なコスト縮減

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。